ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

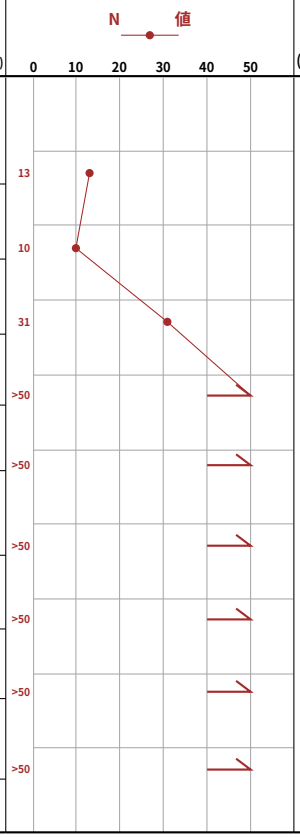
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-2	調査位置				北　緯	36 ° 35 ' 52.7400 "
発注機関	栃木県鹿沼土木事務所			調査期間	2009-07-11 ～ 2009-07-13	東　経	139 ° 40 ' 1.8100 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	267.37 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 39.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	9.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	266.47	0.90	0.90		崖錐堆積物 (Tl)	茶褐			表面の25cmは非常にルーズな崩落岩片が優勢。以深、ロームを主体にφ5～30mmの角礫を不均質に混じる土質から成る。		
1					強風化頁岩 (Sh)	淡茶灰			風化著しく、岩芯まで組織破壊され、脆弱な岩性を呈している。コアは外周が粘土化した棒状形にて採取され、圧指で容易に崩れる。内部は割れ目と認識できる細かい層理が多発しており、網目状の薄層細片礫の形状から成る。 2.8m以深、幾分か風化・変質が弱くなり、脆性さも低下する。5cm内外の棒状コアにて採取される箇所あり。		
2											
3											
4	263.37	3.10	4.00		頁岩 (Sh)	灰			3～5cm程の棒状コアを主体に採取できる。弱風化・弱変質区分の性質となり岩種判定が容易に行える。 ハンマー軽打撃で鈍い音を発して簡単に割れる～ボロボロに砕ける硬度区分に相当し、軟岩質のコア硬度を呈する。 亀裂は斜状方向の閉塞クラックを大半として、局所で網目状に発達する。 6～7.8m間、細かい亀裂目から軽い衝撃で分離し易いが、外力を与えない状態では5～50cmの棒状コアを主体とする。しかし、硬度の低下を伴い、外周は粘土化しており、カッターで傷ができる。 7.8m以深、ガラス質の珪酸を混在。風化・変質の頻度が高くなり、簡単に割れる～崩せる膠結度合いにある。 割れ目として認識ができない状態を主とする。		
5											07/11
6											
7											
8											
9	257.95	5.42	9.42								07/13

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	4	4	5	13／30	13
1.45					
2.15	3	3	4	10／30	10
2.45					
3.15	10	10	11	31／30	31
3.45					
4.15	19	20	11／5	50／25	>50
4.40					
5.15	35	15／3		50／13	>50
5.28					
6.15	19	16	15／7	50／27	>50
6.42					
7.15	16	20	14／5	50／25	>50
7.40					
8.15	23	27／8		50／18	>50
8.33					
9.15	16	17	17／7	50／27	>50
9.42					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日